

## 2. 山間部のはなし

さんかんぶのはなし

さんかんぶ

**山間部**では、一ツ瀬川は椎葉村、西米良村、西都市の一部の山間地域を流れます。この地域は気候が厳しく、急な斜面の地形がほとんどを占めます。このため、ここに住む人たちは、比較的地形の緩やかな川沿いから山腹にかけて工夫して家を建てています。昔の家は藁葺き屋根が多く、昔ながらののどかな山村風景を作り出していました。



**しかし**、こののどかな風景とは反対に、生活は大変厳しいものでした。わずかな平地では農作物を十分に作る事ができず、食料の確保が困難でした。そのため焼畑というやり方で山を切りひらき、ヒエやアワなどの雑穀、糸巻き大根などを生産していました。また、山では山菜、キノコ採り、イノシシの狩猟を行い、樹木の管理や伐採により林業や炭作りを行っていました。この地域の人々は、深い森と共に生活してきました。



さんかんぶ

**山間部**で採れた農産物や木炭などは一ツ瀬川下流部や球磨地方に運ばれました。この時に利用したのが、米良街道です。この米良街道は昔から交通の難所であり、特に下流部への道は険しかったことから、西米良村・椎葉村共に球磨地方との交流が盛んでした。このため、椎葉村、西米良村、旧東米良村(現西都市)は一ツ瀬川下流部とは違う独特の文化・風習・伝説がいまだに残る里として知られています。





かんきょう

# 環境

が厳しいながらも独特の文化・風習を持ち、素朴な山村であった山間部にも、近年になると開発の波が押し寄せてきました。険しい谷の地形が電源開発（ダムによる水力発電）の適地として高く評価されたのです。最初は小さな施設の建設が進みましたが、土木技術の進歩により、水力発電所のよ

うに大きな施設が造られるようになりました。中でも一ツ瀬発電所は、昭和38年に完成した西日本一の規模を持つアーチ式ダムの「一ツ瀬ダム」からの落水を利用し、約18万kwh（貯水式ダムでは全国第9位）の電気を作り出します。



みやざきけん

## 宮崎県

が誇るこの一ツ瀬ダムの建設では、西米良村の4地区（越野尾、横野、小川、村所）と旧東米良村の3地区（中尾、八重、銀鏡）において、合計361戸の住宅がダムの底に水没することになったので、住宅やその他の施設を全部別の場所に移す大規模な移転が行われています。